

平成 30 年度（第 3 回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 平成 30 年 9 月 21 日（金） 14 時～15 時 45 分
 - 2 開催場所 青少年女性センター 大会議室
 - 3 出席委員 松尾委員、山口委員、熊谷委員、田上委員、林委員、後藤委員、柳谷委員、前川委員、宰務委員、鹿多委員、望月委員、岡本委員、和田委員（13 名）
 - 4 欠席委員 高瀬委員
 - 5 出席職員 田淵教育長、大西教育指導部長、平田教育指導部次長、山本教育指導部参事、福島社会教育・スポーツ振興課長、沼田文化財調査研究センター所長、竹内中央図書館長、高橋加古川公民館長（代表館長）、神吉学校教育課長、今津青少年育成課長、社会教育・スポーツ振興課（大山担当課長、川上副課長、尾崎地域家庭教育係長、今井書記）
 - 6 傍聴者 1 名
 - 7 議事要旨
- 開会 14 時
委員長あいさつ、教育長あいさつ

（協議事項）

- 1 地域総がかりの教育の推進について（取組報告）
（学校教育課より中学校区連携ユニット 1 2 における取組について説明）

委員

私は、学校園支援ボランティアと学校をつなぐ地域コーディネーターとしても活動を行っている。学校が何を望んでいるかや支えたいけれどもどうしたらいいのかという人の調整を行っている。先般アンケートを行い、学校のニーズや地域ができることについて把握を行った。そのうえで調整を進めているところである。地域性にもよるが、地域コーディネーターの仕事がいらなくらいに、あちらこちらで活動が行われている。例えば、田植え体験や図書館の手伝いなどが挙げられる。土地柄で自主的に広がっている面があるので、こういったことが他の学校にも広がっていけばと考える。地域の方は、さまざまな分野の知識や、得意な分野をお持ちで、それを活かすことができているので学校園支援ボランティアが広がっている。そういったバンクができれば、校区外にも広がっていくと思う。

委員

ユニット 1 2 は学校園の連携が進み、いよいよ地域との連携の段階になってきていると思う。ボランティアポイントの導入を含めて、ボランティアをどんどんやっていこうと進められているところだと思う。地域総がかりの教育は、青少年育成連絡協議会で昔から取り組んでおり、様々な団体が参加し、何十年と協議を行っている。地域総がかりの教育ということで新しい組織ができてしまうと、同じようなものがあるという状態になってしまう。町内会長や P T A 会長も何度も同じような会議に行くことになってしまうので、今ある組織を踏まえて取り組んでほしい。

また、ボランティアについて、学校には、図書ボランティアやおやじの会などの組織がある。自分がやりたいことなのでやる気を持って取り組んでいる。しかし、担当の先生も忙しく、学校と意思疎通ができていないこともあるので、コミュニティスクールの導入など、互いに意見を出し合い、話し合える場作りをしてほしい。ユニット単位だけでなく、小学校単位でも必要だと考える。

学校教育課長

組織のことについては、同じ人が、同じような会議に出席していることや同じような議題が様々な会議で取り上げられていることについては、課題であると考えするため、地域協働推進部会で考えていきたいと思う。

また、話し合える場作りとして、内容によってユニットで取り組んだほうが良いものもあれば、学校で取り組んだほうが良いものもあると思う。それぞれの課題を踏まえ取り組んでいく必要があると考える。それに関わってくるのが学校運営協議会になってくるのではないかなと思う。

委員

現在、志方ユニットではできることから取り組んでおり、登下校時の見守り・あいさつに取り組んでいる。その他にも、民生委員の子育てにこにこサロンなど、ユニットと関わりのない取組もある。そういったことも含めて取り組んでいく必要があると考える。

また、志方の3小学校には、それぞれ特徴があり、3校同時に事業を行うのは難しいのではないかと考える。

委員

ユニットの方向性が見えてこない状況である。また、地域という枠組みも含めて整理できていないので、色々皆さんの意見を聞かせていただき、引き続き議論を深めていきたいと思う。

委員

幼稚園、こども園、保育園では、ユニット外に通っている人も多い。各ユニットごとに特色があるが、自分のエリアのユニットでの取組とは異なることがあるので、その弊害があるということも考えてほしい。

赤ちゃん先生について、来てくれる学校と来てくれない学校もある。格差がでていることがもったいないと思う。命を学ぶ大事な機会であるため、格差が出ないようにしてほしい。

学校園支援ボランティアについて、学校からの要望が強い学校もある。学校の望むこと以外してくれるなという雰囲気がある。提案をしても、順番が違うと言われたことがある。そういったことが多いとボランティアの数も減ってしまうと思う。みんな時間を工面して取り組んでいるため、きちんと対応してほしい。

委員

赤ちゃん先生は、ボランティア団体が赤ちゃんの育て方を子どもたちに教えてくれるというものである。

委員

赤ちゃん先生は、いろいろコースがあり、回数に応じて金額も様々である。

委員

昨日、志方小学校の3年生に人権教室を行ってきた。DVDをみて、ワークショップを行った時、こういった意見が出るだろうと考えて子どもたちに質問してみても、考えていなかった視点からの意見があった。新たな気づきがあり、とても充実した時間だった。学校園支援ボランティアに登録していなくても、いろんな団体の人が学校に入って活動している。加古川市は昔からボランティアで成り立っているという文化があると思うので、いろんなところで折り重なって子どもたちの成長を見守っていければ良いと考える。

また、学校園支援ボランティアで参加するとボランティアポイントが貰えるが、仲間と話しているとポイントはいらぬのにという話がある。

どうやって子どもたちに関わっていくか、地域でよく話し合っていく必要があると思う。

委員

学校園支援ボランティアはどういった立場でやってほしいか示してほしいと思う。

委員

地域はユニットではなく、小学校単位で動いているところもある。先生も忙しいので、配慮が無いときもある。互いが方向性を一緒にして取り組むことが大切ではないか。

委員

別府西小学校では、学校園支援ボランティアに登録していない人の方が多いと思う。お米作りや囲碁教室、図書ボランティア、見守りなどいろいろな場面で活躍してくださっている。小さい頃から地域で育っていると子どもたちも地域の人も実感している。いろんなところで地域総がかりの教育に取り組まれていると感じる。防災教育をしないか、地域の神社の歴史を学ばないかなど、地域の人が校長室に来られ提案いただくこともよくある。地域での学びも大切ではあるが、時間やタイミングの都合で、すべて取り組むのは難しいが、学校と地域で共に子どもたちを育てていきたい。

委員

猛暑の影響で地区水泳が中止になった。ずっとプールにも連れて行けるわけでもなく、子どもを遊ばせる場所がない。雨天であっても炎天下であってもものびのび遊べる場所が学年が上がるにつれて無くなっていく。公民館などを柔軟に使える仕組みがあればいいと思う。

委員

地区水泳が中止になったとしても、水道など身近にあるものを活用すれば、遊ぶことができる。

委員

お祭りや能など、地域で取り組んでいるところがある。私たちの地域では、年4回防災訓練をしており、今度は、学校まで避難訓練を行う。何かをつくって、みんなが同じ気持ちになれる取り組みが必要だと思う。

委員

先ほど委員より、時間がないという話があった。今後クーラーが導入される予定となっている。夏休みを短くして時間を確保することも必要ではないか。

地区水泳について、共働きの保護者が多いため、当番に行ったおじいちゃんおばあちゃんが倒れそうになるなど、問題も生じている。遊べる場所が無くなってきているものもあるが、今

までやってきたことを見直す必要もあるのではないかと。そういったことを学校と地域で共に真剣に考えていく必要があると思う。また、いろんな人が一緒に暮らせる社会になるためには、それぞれの立場を分けず一緒に考えていく必要があると思う。

委員

8月末にあった地域とともにある学校づくり協議会において、ユニットを辞めて、新たな取り組みを行うのかといった意見があった。今までの取り組みも非常に尊いものであるため、既存の取り組みを膨らませていく方向性で進めていくとのことであった。

委員

今の時代、子どもを学校だけで教育するのは難しい時代になっている。地域も保護者も学校も含めて、みんなで子どもを育てるという意識が必要だと考える。学校に足を運び、学校の現状を見ていただきながら意見交換ができたらと思う。学校運営に関わっていただけの方が地域にいると助かる。情報も氾濫し、誤った情報が多い時代であるから、学校・子どもを地域全体でつくっていくということが必要だと考える。

(報告事項)

- 1 兵庫県社会教育委員協議会総会・研修会（7/4）の参加報告について（委員 報告）
- 2 近畿地区社会教育研究大会（和歌山大会）（9/7）の参加報告について（委員 報告）
- 3 東播磨・北播磨地区社会教育・公民館研究大会（10/16）について
東播磨・北播磨地区社会教育振興大会（12/1）について
（地域家庭教育係長 報告）

(その他)

なし

- 閉会 15時45分
副委員長あいさつ

以上